

「四国防災・危機管理プログラム」
防災・危機管理人材養成シンポジウム

「国民保護からみた戦争紛争の 安全保障と危機管理」

日本大学危機管理学部 福田 充

日時： 2023年3月13日(月)
会場： 香川大学 オンライン

福田充研究室 E-mail: fukuda.mitsuru@nihon-u.ac.jp
Web: <http://fukuda326.o.oo7.jp/>
Twitter: fukuda326

2023 Mitsuru Fukuda 1

福田充研究室の危機管理・調査研究の履歴（1995年～2023年）

- 1995年
阪神淡路大震災 現地調査
オウム地下鉄サリン事件 東京都民調査
- 1996年
災害警報実験研究/ラジオ(東海地震警報・毒ガス事故)
- 1997年
災害警報実験研究/テレビ(東海地震警報)
- 1998年
ドイツにおける緊急事態対処の現地調査
地下街・高層ビル等過密空間の地震対策調査
秋田県鹿角市八幡平地すべり・土石流災害 現地調査
- 1999年
JCO臨界事故 現地調査
那須集中豪雨災害 現地調査
大阪NTT回線事故の社会的影響に関する調査
2000年問題に関する研究
- 2000年
イギリスにおけるテロ対策ヒアリング調査
企業の地震防災対策と帰宅困難者問題に関する調査
- 2002年
社会安全・危機管理に対する意識と社会教育・マスコミ報道に関する調査研究
- 2003年
自治体への火山に関する地域防災計画調査
自治体への津波に関する地域防災計画調査
- 2004年
十勝沖地震津波 現地調査
新潟福島豪雨水害 現地調査
新潟県中越地震 現地調査
- 2005年
アメリカにおけるテロ対策研究 視察調査
JR尼崎事故(JR福知山線事故) 現地調査
福岡県西方沖地震 玄海島 現地調査
兵庫県豊岡水害 現地調査
和歌山県広川町津波防災政策 現地調査
- 2006年
原子力のリスク・コミュニケーション調査
- 2007年
能登半島地震 調査
原子力発電所職員に対するヒアリング・アンケート調査
- 2008年～2010年 米国在外研究
コロンビア大学戦争と平和研究所客員研究員
- 2011年
東日本大震災 現地調査(岩手・宮城・福島・茨城)
福島第一原発事故 現地調査
- 2012年
福島第一原発事故 アンケート調査
北朝鮮ミサイル発射実験問題 調査
熊本大水害 現地調査
- 2013年
.....

※以降省略

日本大学危機管理学部 教授
日本大学大学院新聞学研究科 教授
博士(政治学)

警察政策学会会員 テロ安保部会会員
日本政治学会会員
日本災害情報学会会員 など学会会員
内閣官房委員会委員、総務省消防庁委員会委員、
厚生労働省委員会委員、埼玉県国民保護協議会委員など

2

現代の危機管理はオールハザード

オールハザード・アプローチによる危機管理

- ・地震・台風などの**自然災害**
- ・原発事故・航空機事故などの**大規模事故**
- ・**テロリズム**・大量殺傷事件
- ・**戦争・紛争**
- ・**サイバー**・ネットリスク
- ・新型コロナなど**感染症**パンデミック

3

オールハザード・アプローチ

危機管理学＝オールハザード・アプローチ

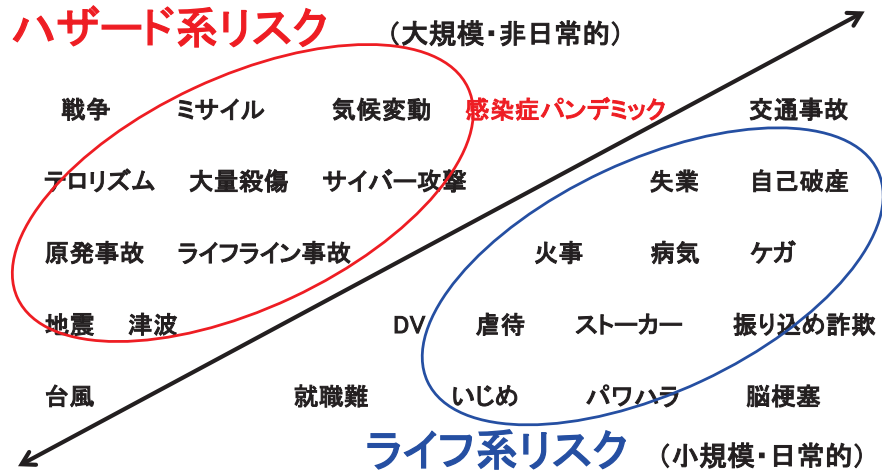
All Hazard Approach

すべての 破滅的危機 を対象にする

地震や台風などの自然災害、犯罪やテロリズム、ミサイルや戦争・紛争、情報流出やサイバー攻撃、ネット炎上、感染症パンデミックなどすべての破滅的危機を対象にする危機管理学。

4

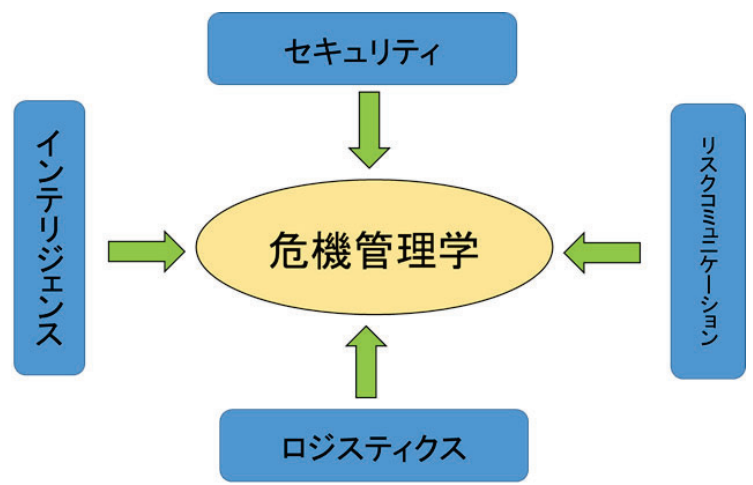
オールハザード・アプローチ



危機管理学の構造

		オールハザード・アプローチ							
		自然災害	大規模事故	犯罪	テロリズム	戦争紛争	環境問題	情報流出	パンデミック
学際的アプローチ	法学								
	政治学								
	社会学								
	経済学								
	心理学								
	都市工学								
	情報工学								
	土木工学								
	地質学								
	気象学								
医学									

危機管理学の4機能モデル 福田(2015)



「危機管理」とは？

- ①危機に関する情報を収集し、分析する。
= インテリジェンス
- ②危機の発生と拡大を食い止める対策をとる。
= セキュリティ
- ③危機への対処に必要な物資を準備し使う。
= ロジスティクス
- ④危機に関する情報を市民に伝え議論する。
= リスクコミュニケーション

現代の安全保障もオールハザード

本来の安全保障は軍事・外交が中心……

- ・経済安全保障
- ・食料安全保障
- ・エネルギー安全保障
- ・情報安全保障
- ・感染症安全保障

※人間の安全保障から「人権の安全保障」へ

9

ロシアによるウクライナ全面侵攻

10

ウクライナ軍の抵抗・市民の避難

(1)ウクライナ軍兵士の戦闘

男性国民は徴兵・志願兵
国民一人一人に武器を貸与
外国人部隊を編成
欧米NATOからの軍事支援

(2)女性・子供・老人は国外避難

ポーランド、ルーマニア等へ避難
約400万人が難民化
地下壕・シェルターで避難生活

11

日本を取り囲む安全保障リスク

①世界情勢 ～ 分断する世界

- ・ロシア・ウクライナ戦争 陸続きの戦争
- ・北朝鮮ミサイル有事
- ・台湾有事

②想定される攻撃シナリオ ～ 島国の特性

- ・ミサイル攻撃 × 着上陸侵攻
- ・航空戦力空襲

③対策と戦略

- ・安保3文書改定
- ・国民保護計画

12

国民保護計画からみた対策

国民保護法の対象

- ①ゲリラ・特殊部隊
- ②弾道ミサイル
- ③航空攻撃
- ④着上陸侵攻

13

安全保障のリスク評価の必要性

× 着上陸侵攻のリスク(低)

大規模部隊の上陸用兵器不足(北・中・露)

△ 航空戦力空襲のリスク(中)

航空優位をとる戦闘機・爆撃機の不足

○ 弾道ミサイル攻撃のリスク(高)

弾道ミサイルの保有・運用レベルの高さ

14

危機管理のサイクル

①リスク源(リスク・ソース)



②リスク認知(リスク・パーセプション)



③リスク評価(リスク・アセスメント)



④リスク合意形成(リスク・コミュニケーション)



⑤リスク対策(リスク・マネジメント)

15

日本の問題点

◎リスク評価とシナリオ分析から対策ができる。

- ①リスク源 特定のタブー 深刻→克服へ
- ②リスク認知のタブー 深刻→克服へ
- ③リスク評価のタブー 深刻
- ④リスクコミュニケーションのタブー 深刻
- ⑤リスク・マネジメントの不足・不在

16

台湾有事（事例①）

南西諸島防衛

・自衛隊は空港・
港湾利用できるか
？

・国民保護のため
空港・港湾から住
民避難できるか？

・住民避難用のシ
ェルターは？

17

台湾有事から南西諸島防衛へ

住民避難
民間航空機
民間船舶
安全確保は？

九州に避難
避難場所は？
仮設住宅は？
長期避難は？

18

国民保護の武力攻撃事態認定

19

残された課題が山積

- ①武力攻撃事態は迅速に認定されるか？
- ②「武力攻撃予測事態」はどのような基準で認定されるのか？
- ③「予測事態」認定された後、住民が島外に避難する時間の余裕はあるか？
- ④「予測事態」時に民間の船舶、航空機を使用してよいのか？
- ⑤住民が事前に島外避難できなかった場合は島内でどう保護するのか？
- ⑥島内に住民避難用シェルターは建設可能か？

20

北朝鮮弾道ミサイル(事例②)

2022年北朝鮮ミサイル発射

過去最高の発射回数 70発

イスカンデル、KN23

日本海へ約200～400キロ

弾道ミサイル発射実験

核開発・核実験実施の兆候

国連安保理決議違反

21

弾道ミサイル防衛システム

22

ミサイル危機の特徴

● 情報が命～

ミサイルは目に見えない

メディアによる情報伝達に依存

● 時間との闘い

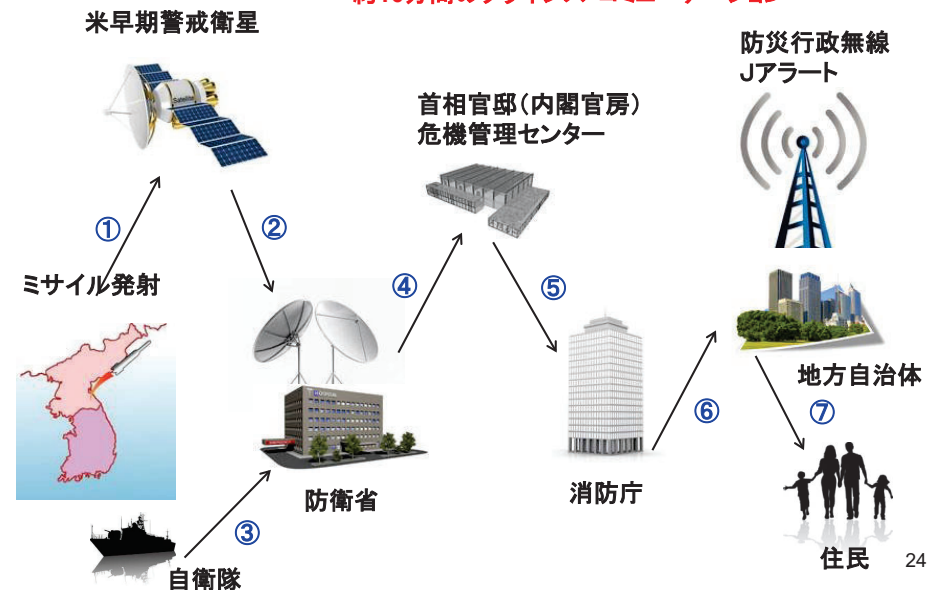
ミサイル発射から東京に7～8分で着弾

対応行動は1～2分、間に合わない可能性も

23

ミサイル発射に対するJアラートの情報伝達(福田:2012)

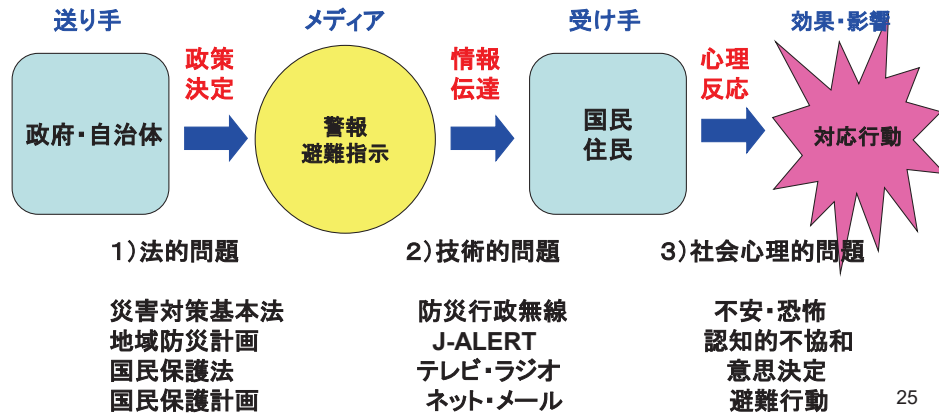
約10分間のクライシス・コミュニケーション



24

クライシス・コミュニケーション

危機(クライシス)が発生した段階において、組織や個人間で行われるコミュニケーション。危機から人々の生命を守るために行われる**警報**や、**避難指示**などによるコミュニケーション。(福田, 2010)



ミサイルからの避難行動

ミサイルが生み出す被害

弾頭の種類で被害は異なる

核弾頭か、**通常弾頭**か？

被害を生み出す原因

- ・放射線、放射能
- ・爆発、爆風
- ・熱線、熱風
- ・火災



※ これらから身を守る避難、対応行動を

※ これらの身体への直撃を避ける

※ 第2次世界大戦で地下階、防空壕で守られた命

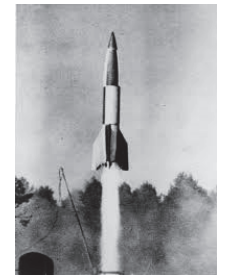
ミサイルが戦争で使用された例

第2次世界大戦

ナチスドイツによる

報復兵器

V-1号、V-2号



ロンドンに合計2000発以上着弾

1万人以上の死者発生

ロンドン市民は地下鉄に避難生活

多くのロンドン市民の命は守られた

地下鉄、地下街の強さの証拠証明



ミサイルに備えた事例

①イスラエルの事例

湾岸戦争： 空襲警報・ガスマスク・防空壕

②スイスの事例

民間防衛： 永世中立・国民皆兵・シェルター義務化

③ウクライナの実例

ロシア軍による一方的侵攻

ミサイル避難： 空襲警報・地下鉄・シェルター利用



29

避難施設・設備の充実化

①行政の対応(公助)

- ・緊急一時避難施設の指定の拡大・強化
- ・緊急一時避難施設の新設

②社会の対応(共助)

- ・企業での避難施設、シェルターの建設
- ・学校での避難施設、シェルターの建設

③個人の対応(自助)

- ・家庭での避難施設、シェルターの構築
- ・個人の生活空間での避難先の確認・決定

※ 公助・共助・自助の総合力で実現

30

シェルター普及への合意形成

①シェルターがなぜ必要なのか？

(リスク・ソース) 台湾有事、北朝鮮ミサイル

②シェルターはどの地域・場所に必要なのか？

(リスク・アセスメント) 先島諸島、米軍基地周辺

③シェルターを地域で導入すべきか否か？

(リスク・コミュニケーション) 住民の議論と合意形成

31

安全保障・危機管理の必要性

「平和構築」(ピース・ビルディング)のためには
戦争はなぜ起きるのか？

戦争とは何か？ を学ぶ必要がある。

「安全保障研究」「危機管理研究」の必要性

戦争・軍事をタブー視しない

憲法、自由・人権とのバランスを考える

危機管理のリベラル・アプローチの重要性

32

リスクコミュニケーション

戦争や災害、テロなどの危機について学び、考え、議論して問題解決に結びつける。

福田充(2022)『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』(平凡社新書)



33

『政治と暴力～安倍晋三銃撃事件とテロリズム』

福田充

『政治と暴力～安倍晋三銃撃事件とテロリズム』

(PHP新書)

2022年9月16日刊行



34

ご清聴ありがとうございました。



詳細は、「福田充研究室ホームページ」へどうぞ。
<http://fukuda326.o.oo7.jp/>

Twitterアカウント：@fukuda326

参考文献もご覧ください。



『リスク・コミュニケーションとメディア』北樹出版



『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』北樹出版



『テロとインテリジェンス』慶應義塾大学出版会



『メディアとテロリズム』新潮新書

35